

## 1. 本研究の経過

### (1) 科学研究費の不採択

本研究の継続にむけて、新たな研究の申請（基盤研究[A]、タイトル「近代地理資料を活用したアジア太平洋地域の環境変動の調査研究」、2011年度の申請額 12,890 千円）は不採択となった。なお、この審査結果開示によれば、申請課題の平均点（カッコ内は採択課題の平均点）は、①学術的重要性・妥当性 3.33 (3.45)、②計画・方法の妥当性 2.67 (2.82)、③独創性及び革新性 3.00 (3.36)、④波及効果及び普遍性 3.00 (3.09)、⑤遂行能力、研究環境の適切性 2.83 (3.36) であった。

### (2) 大阪大学文学研究科共同研究費の採択

大阪大学文学研究科が部内で公募している共同研究経費に応募したところ昨年度に引き続いて採択された。タイトルは「外邦図と GIS を活用した環境変化分析手法に関する研究」、金額は 500 千円であった。なお 2010 年度も共同研究経費の配分をうけ、そのタイトルは「外邦図を素材とした時系列的地図情報による環境変動研究の方法に関する研究」、金額は 500 千円であった。

### (3) 調査活動

#### 海外調査

- ① 2011 年 6 月 6 日、スコットランド、エディンバラのスコットランド王立古代歴史モニュメント委員会 (Royal Commission on the Ancient and Historical Monument of Scotland) に所属する「空中偵察アーカイブズ」(Aerial Reconnaissance Archives) を小林茂 (大阪大) が訪問した (写真 1・2)。これは 2012 年度からの放送大学の共通科目「グローバル化時代の人文地理学 (12)」の第 2 回講義のための現地取材としておこなったもので、同アーカイブズのマネージャー、Allan Williams 氏にとくにお世話になった。「空中偵察アーカイブズ」は第二次世界大戦中の連合国軍中央写真判読隊の空中写真 550 万枚のほか、ドイツ軍の偵察写真 100 万枚以上を収



写真 1：空中偵察アーカイブズでの空中写真の標定作業

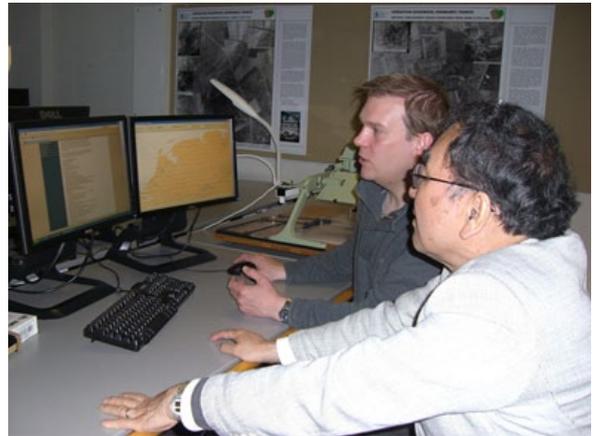


写真 2：空中偵察アーカイブズ・マネージャーのウィリアムズ博士から説明を受ける小林

蔵し、その一部を公開するとともに、閲覧サービスをおこなっている。この最大の活用目的は、ドイツにおける不発弾の探索で、爆発せずに地中に潜ってしまった爆弾の痕跡を、爆撃後の空中写真を利用して特定するところにある。投下された爆弾の約 10 パーセントが不発弾となり、工事中に発見されることが多く、事故も発生するので、この存在を事前を知っておくことが必要になっているのである。同じような空中写真の閲覧は、オランダやベルギー、フランス北部についてもおこなわれるようになってきているという。外邦図の活用方法についても示唆的なことが多く、Williams 氏とは、また別の機会に再会

することが期待された。なお、空中偵察アーカイブズの URL は、下記の通りである。

URL: <http://aerial.rcahms.gov.uk>

- ② 2012年2月28日に、現在外邦図を使用して土地利用変化研究をおこなっている台北郊外の桃園台地を見学した（この研究の詳細は本誌所収の森野ほかによる報告を参照）。片山剛大阪大学教授（東洋史）の研究グループを波江彰彦と小林茂（ともに大阪大）が案内するというかたちをとったが、いずれも初めての場所でもどすることが多かった。あいにく年に一度という寒波の最中で、しかも雨天となったが、石門ダムをはじめ桃園大圳の水路、溜池などをみる事ができた。また3月2日には、波江と小林が桃園農田水利会を訪問し、同水利会の徐繼鵬主任工師より説明を受けるだけでなく、農田水利会の車で現地を案内していただいた。またこのための通訳として、台湾師範大学大学院に留学中の池田若菜さんのお世話になった。このほか3月1日には中央研究院の人文社会科学聯合図書館で、廖玄銘研究助技師の配慮により、波江と小林が日本統治時代の台湾の水利関係の地図を閲覧するほか、3月3日と4日には中央図書館台湾分館で1874年の台湾出兵に関連する地図（とくにLe Gendre作製のもの）を小林が調査した。これに際しては大坪慶之氏（三重大）の助力を得た。

#### 国内調査

- ① 2011年9月30日に国立国会図書館で、小林茂（大阪大）がとくに *Tokei Journal* の調査をおこなった。この英文週刊新聞は明治初期に東京で発刊されていたもので、1874年の台湾出兵に際しては、関連記事を掲載するだけでなく、地図も掲載しており注目された。
- ② 2011年12月8日に京都市山科区の故室賀信夫京都大学助教授宅で、総合地理研究会関係の資料の調査を鳴海邦匡（甲南大）と小林茂（大阪大）がおこなった。室賀氏の関連資料は、戦中期の資料として高い価値をもつと評価され、京都大学文書館に収蔵されることになり、資料の

選択と搬出作業の一部もおこなった。なお、室賀氏の資料については、2010年度に『日本地政学の組織と活動—総合地理研究会と皇戦会』を刊行しているが、今後さらに新たな資料が発見されると予想される。

- ③ 2012年3月10日に国立国会図書館地図室で、小林茂（大阪大）が日清戦争期に作製された台湾の5万分の1地形図を閲覧し、複写した。上記台湾桃園台地の土地利用変化の研究では、20世紀初頭の「台湾堡図」（2万分の1）、1920年代の地形図（2.5万分の1）、2003年の地形図（2.5万分の1）をGISにより分析しているが、さらに古い時期の地図として閲覧したものである。ただし、地形や土地利用の測量が充分でなく、GISによる分析には適していないことが判明した。

#### (4) 台湾における外邦図を使った土地利用変化研究

外邦図を使った土地利用変化研究として、2010年度から継続しているもので、現在まで、桃園台地の一角を占める観音郷について、20世紀初頭の「台湾堡図」（2万分の1）、1925年の地形図（2.5万分の1）、2003年の地形図（2.5万分の1）のGISによる分析を終了した。その一部について、報告書の本誌に掲載しているのでご覧いただきたい（森野ほかによる報告）。

#### (5) スタンフォード大学での外邦図シンポジウム

2011年10月、スタンフォード大学で外邦図に関するシンポジウムが行われ、外邦図研究グループからは石原潤（奈良大）、山近久美子（防衛大）、山本健太（九州国際大）小林茂（大阪大）が参加した。この詳細については、本誌に山本による報告を掲載しているので参照していただきたい。また現地では、スタンフォード大学関係者のほか、日本学術振興会サンフランシスコ・オフィスの皆さんのお世話になった。とくにセンター長の武田誠之先生、副センター長の上田桃子氏、さらに高エネルギー加速器研究機構の野村恭子氏には、さまざまご配慮をいただいた。ここに記して感謝したい。

#### (6) 「新外邦図ワールド・マップ検索システム」(仮称) の開発

山本健太(九州国際大)が、外邦図を検索する新しいシステムを試作した。このシステムは、グーグルアースのようなかたちで、世界地図からめざす地点の外邦図を特定できるだけでなく、その地点に関する複数時点の外邦図も検索できるところに大きな特色がある。現在の検索方法では、同一地域に関する複数時点の地図の検索には、多大な労力が必要であるが、これによって、時系列的に外邦図を即座に把握できるので、景観変化研究などに際して、大きな威力を発揮すると考えられる。なお、現在のところ経緯度を記入していない外邦図については検索が極めて困難であるが、これらの経緯度を特定し、新システムに組み込めば、さらに外邦図が使いやすくなると考えられ、今後の発展が期待される。

#### (7) 学会発表・講演

- ① 2011年7月3日、10日、11日に大阪大学中之島センターで、懐徳堂古典講座(集中)の講師を小林茂(大阪大)がつとめた。タイトルは「地図から読む近代日本—もうひとつの対アジア太平洋関係」で20名ほどの受講者があった。
- ② 2011年9月30日に日本大学文理学部で開かれた第11回植民地関係資料に関するワークショップで、小林茂(大阪大)が「アメリカ議会図書館の東アジアに関する近代地図資料—これまでの調査と今後の可能性」と題する発表をおこなった。またその前日には松重充浩教授(日本大/東洋史)が収集された近代東アジアの地図・ポスター資料を見学した。

#### (8) 2011年度に刊行された外邦図関係論文など

- ① 小林茂 2011. 『外邦図—帝国日本のアジア地図』中公新書.
- ② 山近久美子・渡辺理絵・小林茂 2011. 「公開土王碑文を将来した酒匂景信の中国大陆における活動—アメリカ議会図書館の手描き外邦図を手がかりに」朝鮮学報 221: 117-159.
- ③ Kobayashi, S., Japanese mapping of Asia-Pacific areas, 1873-1945: An overview.

*Cross-Currents: East Asian History and Culture Review*, 1(2).

URL:<http://cross-currents.berkeley.edu/issue-2>)

- ④ 山本健太・小林茂 2012. 「外邦図の活用」HGIS 研究協議会編『歴史 GIS の地平—景観・環境・地域構造の復原に向けて』57-67. 勉誠出版.